高齢者との豊かな交流活動（小学校高学年 総合的な学習の時間）

１　単元名　「わたしたちにできること～デイサービスセンターのお年寄りとの交流から～」（６年生）

２　単元設定の理由

Ｉ市は高齢化が進み、人口の３０％が高齢者で占められている。クラスの子どもたちの家庭環境を見ると、祖父母と同居している子と離れて暮らしているという子がおよそ半数ずつになっている。子どもによっては、日頃高齢者と接する機会がほとんどなかったり、家に祖父母がいてもそれ以外の地域のお年寄りとは接する機会が少なかったりする子がほとんどである。そのため、子どもたちは、これまで地域で出会う高齢者が日頃感じている困難さや、生きがいについて知る機会は少ない。

６年生の子どもたちは、概ね明るく元気に過ごしている。しかし、多くの人とかかわる活動では自分のやりたいように行動してしまったり、反対に指示されるまではなかなか動けなかったりする姿がみられた。相手の立場や考えに思いを寄せ、自ら状況を考えて行動することが難しいように感じられる。

このような子どもたちに、デイサービスセンターの利用者と交流することを通して、高齢者のことをより深く知ったり、実際に高齢者とどう関わるのかを考えたりして、相手の立場を考え、自分から進んで行動できるようになってほしいと考えた。また、交流を通して高齢者たちが暮らしの中で感じている困難さやそれを克服して明るく生きているたくましさ、生きがいや高齢者の知恵に気づき、温かい気持ちで接することができるようになってほしいと願い、この単元を設定した。

３　人権教育とのかかわり

○高齢者の心情を共感的に受容し感じ取れる。（技能）
○高齢者の知恵や生き方に対する尊敬や感謝の心をもとうとする。（価値・態度）
○高齢社会に対する基礎的理解や介護・福祉などの課題に関して理解する。（知識）

４　単元目標

○学級で定期的にデイサービスセンターを訪問し、高齢者とかかわる活動を通して、児童一人一人が高齢者を理解し、思いやりをもって自分なりのかかわり方を考えることができる。
○高齢者と交流したり、一緒に活動したりしながら、高齢者がもっている生きがいや知恵を教えてもらい、明るく生きているたくましさを実感し、お年寄りの大切さに気づくことができる。

５　単元の評価基準

評価の観点	①気づく力【A学習方法】	②解決していく力【A学習方法】	③共に生きていく力【B自分自身】	④表現する力【A他者・社会】
評価基準	ア高齢者の知恵や生きていくたくましさに気づく。	ア相手に喜んでもらえるためにどうしたら	ア身近な高齢者に対して自分たちができることについて考える。	ア高齢者と楽しく会話する。 イ他学年に自分たちの活動の様子や活動から学んだことを発信する。

６　単元展開の大要

学習活動（時数）	・児童の姿と主な活動の流れ	○主な支援　□評価
１　デイサービスセンターへ行こう（１回目の訪問計画・実施・振り返り）（４）	（・地域探検にでかける。） ・デイサービスセンターってどんなところかな。 ・センターへ行って何をすればいいかな。 →リコーダーの発表をしよう。（練習） ・リコーダーの発表。 ・センターの方のリードでお年寄りと交流（簡単なコミュニケーション）	○センターの方と事前に活動の目的や児童の様子などについて打ち合わせをする。 ○利用者であるお年寄りの日頃の様子を伝え、安全面で注意することを事前に学習させる。 ②―ア

2　おじいさんおばあさんとなかよくなろうⅠ（２回目の訪問計画・実施・振り返り）（4）	・班ごとに交流内容を考えよう。 ・レクレーションは何をしよう。（１回目はレクに時間がかかってしまった。） ・２つの部屋に分かれたけれど、隣の部屋の様子はどうだったのかな。 ・お互いの部屋での様子はどうだったのかな。 ・たくさんお話ができるといいな。 ・レクの数は少なくしてお話ができるようにしよう。	○１回目の反省を参考にして２回目の活動を考えさせる。 ○お年寄りでも楽しめるレクレーションの資料を用意する。 ○より身近に接することができるよう、お年寄りも２つの部屋に別れて交流活動を行う。 ○お年寄りの様子や職員の方々の様子についても振り替えらせる。（学習カードを用意） ②―ア
3　認知症サポーター養成講座受講（1）	・認知症ってどんなものなのかな。 ・劇で見るとよくわかるね。 ・「おどろかない」「いそがせない」「だいじょうぶだよ」の３つが大切なんだ。	○市内の認知症サポーターの方々に指導していただく ②―ア
4　おじいさんおばあさんとなかよくなろうⅡ（３回目の訪問計画・実施・振り返り）（4）	・全体の進行計画立案とレクの準備。 ・職員の皆さんの接し方（話し方等）を参考にしよう。 ・前回と別の部屋をそれぞれ訪問。 ・いろいろお話を聞いてみよう。 ・うまく話ができなかったり、レクが楽しそうではなかったりした。	○お互いの部屋の様子について次回の参考になることを出し合わせる。 ○お年寄りと話ができる時間を多く確保できるよう助言する。 ①―ア　②―ア　④―ア
5　おじいさんおばあさんとなかよくなろうⅢ（４回目の訪問計画・実施・振り返り）（4）	・今度は、一人一人お年寄りと交流できるように準備しよう。 ・どのようにお年寄りに接すればいいのかセンターの方に教えてもらおう。 ・５回目の訪問計画を立てよう。	○班ごとの活動が中心だったが、今回は一対一で関われるようにしていく。 ○職員の方の考えや接し方を紹介できるように準備する。 ①―ア　②―ア　④―ア
6　おじいさんおばあさんとなかよくなろうⅣ（５回目の訪問計画・実施・振り返り）（3）	・だんだん楽しくなってきた。 ・お年寄りが喜んでくれることが自分にとってもうれしくなってきた。 ・お世話になった職員の方々にお礼の手紙を書こう。	○自分たちで前回の反省を元に５回目の訪問の計画を立てるよう指示する。 ①―ア　②―ア　④―ア
7　活動の様子をいろいろな人に知ってもらおう。	・これまでの活動をまとめて全校に発信する準備をしよう。 ・参観日などで保護者、地域の方々にも知ってもらおう。	○学習カードや展示物、写真や動画などを整理しながら活動を振り返らせ、伝えたいことをまとめられるようにする。 ③―ア　④―イ
8　卒業前にもう一度訪問しよう。（2）	・またおじいさんおばあさんの喜ぶ姿が見られるといいな。	○感謝の気持ちを伝えられる訪問にできるように助言する。 ③―ア　④―ア

６年生のみなさんへ

＜デイサービスセンター職員の方からのお手紙＞

先日は、デイサービスセンターに交流に来てくださり、ありがとうございました。

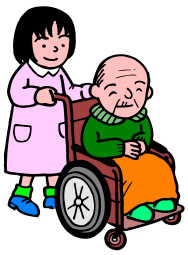
利用者さんの中には、いつもは見られないような笑顔を見せる方や、いつもは職員の問いかけに返事しかしないのに、自分から話しかけている方もいらっしゃいました。わたしたちは、利用者さんが元気になってくださったり、笑ってくださる姿を見られることがとてもうれしいのです。みなさんが訪問してくださることは、高齢者の方にとっては、とても刺激になって、脳の活性化にも大きな効果があると思います。とてもありがたいことです。

私たち職員は、ご利用されている高齢者のみなさんの生きてこられた過程の途中しか関わっていませんが、人生の先輩だということを常に頭において尊敬の気持ちをもって仕事をさせていただいています。利用者さんには、介助されることが負担にならないように心がけ、利用者さんを否定するような言葉や行動はとらないようにしています。

ここには、認知症の方をお世話させていただく施設もあります。認知症は、脳の病気で、忘れてしまったり、思い出せなかったり、考えたりすることがうまくいきません。ですから、利用者さんが同じことを何回くりかえしお話されても、初めて聞いたように受け止めていいます。みなさんも、認知症のサポーターになったとお聞きしています。今は、介助されることは特別なことではなく、だれもが通る道ではないでしょうか。

みなさんが、これから交流を続ける時には、なるべく一人一人の方とお話する時間があると、とても喜ばれると思います。短い時間の記憶はなくても、昔の記憶はしっかり残っていらっしゃる方も多いので、昔の仕事やできごとなどを聞いていただくと、記憶がよみがえってくる方が多いのです。利用者さんは、大変な時代を生きてこられ、今のように便利な道具もない、食べ物も栄養価の低いものを食べ、一生懸命生活してこられた方がほとんどです。

わたしたちは、利用者さんのやる気を引き出したり、励ましたりしながら、楽しくおだやかに過ごしていただけるために仕事をさせていただいています。利用者さんが一度楽しかったと思っていただければ、次に利用する日がまた楽しみになってもらえるので、ホール内に笑いごえがひびきわたるようなデイサービスになるよう心がけています。



６年生のみなさん、これからも時間の許すかぎり、来ていただけると、とてもありがたく思います。よろしくお願いします。